

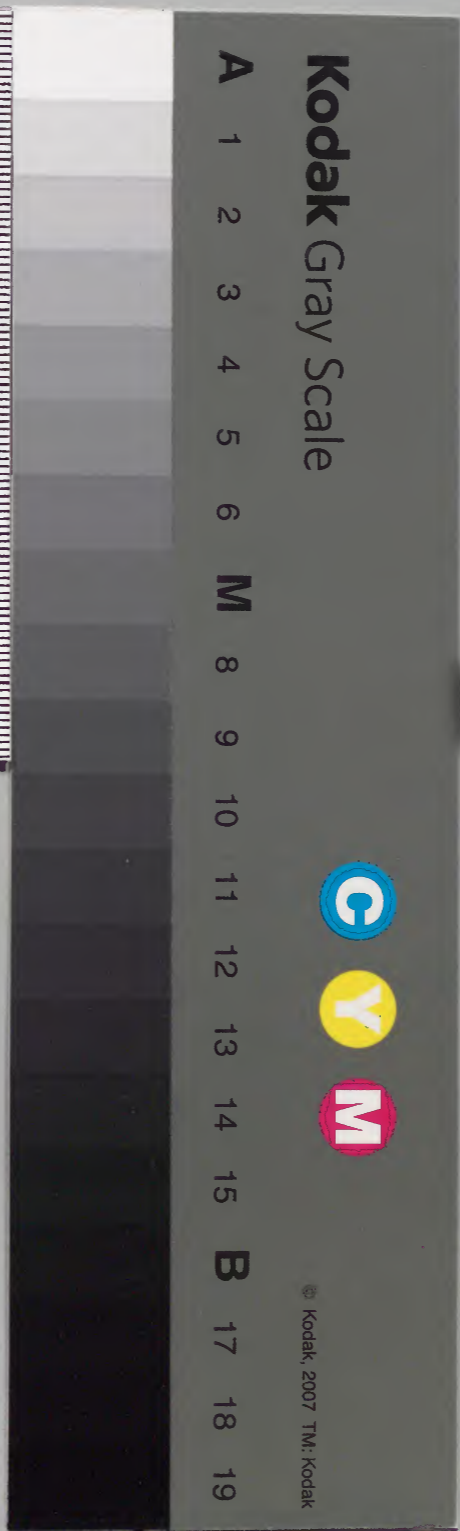
# 佐渡志

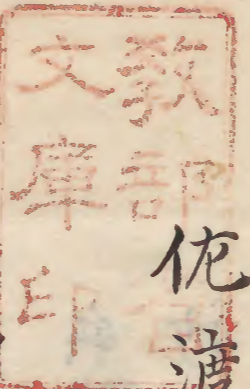
三

			九	和
		一	三	書
		二	三	門
五	二	三	二	
册	架	函	號	類

庫	文	閣	内	
五		九		和
函		三		書
五	五	三		
架	册	號	類	

内閣文庫		
番號	和	9332
册數	5	( 3 )
函號	175	97





佐渡志

神祠

丙一〇二三四號



武神是ヨリナキ

皇朝ノ風儀專ラ祭祀ヲ重ムセラレテ古ニヘ  
天神地祇三千餘坐國ニニ分テ祭ラシメラレ  
時此國ニモ九坐ノ神ヲソ定メラレタリケル延  
喜

欽明天皇ノ御宇ニアタリテ肅慎ノ夷来ルコト

カリニ瀨河浦ト此浦ノ名イフトコロニ在セシ神

其人ヲ忌タマヒテ夷ヲ敢テ近ツカサリニヨシ國



史ニ日本書記載ラレタルソ此國ノ神ノコト見エシ始ナリ

ヘキ舊事紀ニ佐渡國建日別トアリ建日別ハ此國ノ神ノ名トイフ説ミアレト建置ノ條下ニ記セル如ク疑ハシキコトアレハ本文ニハカレト其神跡ハイカニヤナリケム知ヘカラス貞  
觀十六年 甲午十二月正六位上花村ノ神ニ從  
五位下ヲ授ラレ元慶二年戊戌十一月正六位上  
佐志羽神ニ從五位上ヲ授ラレ同七年癸卯三月  
大庭神ヲ從五位下ニ叙セラレミナト見エタレト三代實錄  
今ニ至リテ是ヲノ神モ削エサレハ皆ソノ傳ヲ失ヒ  
タルニヤイフカシキコトナリ元享ノ頃ニ及テ本間  
兵衛太郎同九郎入道佐渡國十社神事ヲ  
沙汰スヘキヨシノ下シ文アリ本間家コレモ何レヲサシ古文書

テ十社トハ言ケム明カナラス代下リテ後ハ國郡  
ニ謂レナキ神ヲモ民ノ心ニ任セテ濫リニ崇メ祭ル  
コト羽白ハシトナリケルニフ祠ノ數年ニ増テ十二  
權現白山權現ナリ里コトニ無キトコロモアラス斯テ  
慶長六年辛巳ヨリ關東ノ政トナリシカト萬ツ  
舊日キニ仍テ治メラレシカハ社地神田ノ租稅永ク  
免サレテ小祠トイヘトモ春秋ノ祭怠ルコトナシ今  
コトニツラ子シルス

度津神社

地壹町六段五畝

羽茂<sup>茂</sup>郡飯園村ニアリ延喜式ニ載ル所ノ九社ノ  
第一ニシテ五十猛命ヲ祭り大屋津姫杵津姫ノ  
二神ヲ以テコレニ配ス一宮記 縁起書又海童神ヲ祭ルトモ  
イヘリ古ハ祠ハ正和中ニアラタメ修セラレテノ千  
文祿二年癸丑六月ノ水ノ口サハヒニ社壇流レケレハ  
同ニ村ノ八幡ノ祠ニ合セ祭レリ其後舊ノ地ニ祠ヲ  
造リタレト猶八幡ヲ相殿ニオクトイヘリ古ヨリ祠ヲ  
修シ鳥居ヲ造ルコトニ河茂村官林ノ杵木ヲ賜ル

例ナリ

大目神社

地壹畝六步

雜太郡吉園村小河内トイフ処ニアリ九社ノ第二  
ニシテ大宮賣神ヲ祭ルトイヘリ按スルニ大目ハモト  
郷名ナリ倭名類聚抄古ハ郡郷ノ名ヲ以テ社ニ名ツケシ  
タラヒ多クシ延喜式 神名越後國蒲原神社川神社ナ  
ト見ツヘシ此地昔ハ羽茂郡ニ屬シテ大目郷小河内  
村トイヘル一村ナリシカ明曆中雜太郡ニ入後マタ  
吉園村ニ併セシナリ德治二年丁未七月本木間遠江

守トイヘル地頭コノヤシロヲ修理セシ時ノ棟札ハ  
今モ残レリ其コロノヤシロ小河内川ノ際ニアリテ  
地殊ニ廣カリシヲ上枚ノ時ニ故アリテ没収シ今ハ  
田圃ニヒラキタレハ尚ソノ地ノ名ヲハ昔ノマニ大目  
林ト檢地帳ニモシルセリ

引田部神社

地貳拾四歩

雜太郡金丸本郷ニアリ九社ノ第三ニシテ大己  
貴神ヲ祭ルトイヘリ別當修驗觀性院ニ景勝ノ  
制札ヲ傳ヘタリ

制札

金丸

右於南地諸軍勢澄始後籍并  
竹木常採奉與令停止早差遠犯  
々輩有々志<sup>於</sup>於立下加威敷由  
被成降朱尔<sup>上</sup>也似<sup>下</sup>件

天正十七年六月日

在<sup>中</sup>

物部神社

地壹畝五歩

雜太郡小倉村ニアリ九社ノ第四ニシテ物部氏ノ

始祖宇麻志麻治命ヲ祭ルトイヘリ國史ニ  
延曆十年辛未九月佐渡國物部天神從出  
位下ニ叙セラルト續日見エタレハ其起レルコトハ十ホ  
久シカルヘシ

### 御食神社

九社ノ第五ナリトイヘトモ神跡今詳ナラス雜太  
郡後山村ノウキニ此神ノ崇ルヨシニテ秋ハカリノ  
小祠アリ修驗觀行院イウキ載祭ルトイヘリサレト元祿  
檢地ノ帳ニ見エテ如何ニヤアルヘキ又同シ郡ノ内  
竹田村大膳ノ社乃チ御食神社ナリト古キ物ニ

記ニタリ按スルニ御食神ハ御食津神トモイヒテ

元大内ノ大膳ノツカサ所ニ祭ラレタル神ナリ延喜式諸書

古ハ通ハシ呼テ大膳ノ神トモ言タルヲ後ニハ御食ノ

名ヲ失ヒテ大膳明神トノニ稱シケルニヤ大膳明神ノコト異ナル説モ

アレト彼祠ニ傳ヘタルニハアラテ總テ古キ事トモ詳ナラヌヲ

今ハ夕強テ説ヲナカシモ穩ナラハ唯関トコロヲ

誌ニテ後ノ考ニ備ヘツ

### 飯持神社

地六畝拾五歩

雜太郡河内村ニアリ九社ノ第六ニシテ若宇加

能賣神ヲ祭ルトイヘリ

越敷神社

地四畝

雑太郡猿八村ニテリ九社ノ第七ニシテ埴安神ヲ  
祭リ中古ヨリハ八幡ヲモ合セマツレリアル人ノイフ越  
敷ノ社ハ猿八村ニアラス河茂村猿橋トイヘルトコロ  
マコトノ神跡ナリトフシカレトモ古書ニヨリテ考ルトキハ  
河茂村ハ昔ヨリ羽茂郡ノ地ニシテ雑太ノ郡ニ入  
マナシ越敷ハ雑太郡鎮坐神十六秘喜猿八村ノ  
カタニシタカフヘキニヤ

大幡神社

地八畝

加茂郡大倉村ニアリ九社ノ第八ナリ按ヌルニ  
天御中至尊ノ末彦久良伊命ノ子大若子命  
ト聞エシ人

垂仁天皇ノ御時北狄ヲ平ラケタル切ニ因テ大幡

主命ト改メ名ツケラレ後伊勢ノ大神主タラシメラ

レシトイフコトアリ 大日本史 補宣轉神 大幡ノ名ヲ以テ考フレハ

彼大幡主命ヲ祀レルニヤアラム又此神ノ人ニヨリテ

讀タマヒシトイヒツタヘタル歌アリ

アマテラスカミノオシヘヲマスヒトノナホキ  
コ、ロニウケヤタモタム  
アメツキノヤシナヒタテシカヒモナクホカノ  
ヲシヘヲマモルヨノヒト

此ニ歌倭論語トイフ物ニモ佐渡國大幡神ノ  
歌トテ出タリ彼モトヨリ疑ハシキコトモウカラヌ物ナ  
レト暫コ、ニヒケリ

### 阿都久志比古神社

地壹段三畝拾八歩

大加茂郡長江村ニアリ九社ノ第九ニシテ加茂氏

ノ遠祖ヲマツルトイヒ傳ヘタリ今ハ執大串彦房ト  
書リ

### 一宮大明神

地貳所壹段

雜太郡宮浦村ニアリ旧記ニヨルニ

順徳上皇此國ニウツラセタマヒシ後フタリノ皇女

ヒトリノ皇子降誕アリ御母ハ供奉ノ官女三人

ノ中誰ニツカアリケムサタカナラスアル家ノ記ニ御母右門  
佐ノ局ト記セリ此局ノ名ハ

承久記ニモ供奉ノ中ニ見エタレハ後薨セサセタマヒテ國人ヲ  
極ナシトセスサレト疑フ關ムニシカス



神トシ祀リ一宮二宮三宮大明神ト仰キヌ

三宮ハ官庫ノ籍ヲ始皆一宮ノ神ハ御在在ノ時慶昔ヨリ親王大明神ト書タリ

子姫宮ト称シマ井ラス鎌倉ヨリノ沙汰トシテ

宮浦ノ地頭本間次郎兵衛守護シ奉リシトイ

ヘリ歌ヲ能セサセタマヒシトテオフケナクモ土人ノ

口ニ残レルアリ

マツアレハオトノ嶋ナルカラナキモシカスカ

ニコワミマクホシケレ

此御歌ニアルカラナキノ此ホカ多カルヘケレト惜ムラクハ

地名今ハサタカナラス

在ニ傳ハラスツノ神殿タヒヒ兵火ニヤケシコトハ

別當慶宮寺ノ大般若經ノ奥書ニ見エタリアル人

ラク一宮明神ノ祠建タル時ニ慶宮寺モ始テ作リシ寺ニテ其由ヲ記

セシ物モアリケルヲ百七十八年ノサキ住僧ノ心トシテ國中ノ一ノ宮トイヒ

ナシ彼度津神社ニナシテ在ニ逢<sup>逢</sup>トヲ謀リ旧記トモトリ捨テアラタニ

附會ノ説作リテ羽茂郡ノ飯園ハ一宮ノ別當ト争ヒ訶<sup>訶</sup>ケルカ官裁ニ

及ヒテ羽茂郡ノカタ古證詳ナレ慶宮寺此祠ノ傍ヨリ堀出

ノ僧辞屈シツ此時ヨリ實説ヲ失ヘリトソ

セシトイフツノ瓶アリ形状トイヒ古色トイヒ在ニ類

ヒナキモノニテ殊ニ貴キサマナリ姫宮イマセシ時ノ物

ニツアルヘキ是ヲ得タル祠官忽家衰ハ嗣ヲ絶シトフ

此瓶今ハ目黒所熊野ノ祠中ニ移シテ深ク納メ置

遠キヲ以テ門徒 <sup>上</sup>坊行泉坊ヲ慶宮寺ノ  
地中ニ置トイヘリ

二宮大明神

地七段壹畝貳拾歩

雜太郡 二宮村ニアリコレモ皇女忠子ノ宮ヲ崇ム  
此姫宮歌ヲ能セサセタマフノミナラス能書ニテオハセシ  
トイヒ傳ヘタリソノ御歌トテ

マタモミムシツカイホハタオリハシノヲウナ  
ワスレツヤマフキノハナ  
アラヤキノイトヒキソフルハタカハナミノア

ヤオルヒマヤナカラム

オサナクヲハセシトキ書セタマヒシトイヒ傳ヘタルモ  
ノ稀ニコレルアリ鎌倉ヨリ河原田ノ地頭本間左エ  
門次尉ヨシテ守護ニ奉ラシム今ニ河原田ヨリ来ル  
道ヲ下馬坂ト唱フルナリ祠官ノ内近藤ト云モノハ  
上皇ノ御隨身サ藤原直家カ末トイヒ傳ヘタリ

三宮大明神

地九段八畝貳拾四歩

雜太郡 三宮村ニアリ親王大明神トモ稱シマ井ラス

此皇子ノ御名傳ハラス千歳ノ宮ト記セシモノアレ  
トモ疑ハシキナリ御在世ノホト國府ノ地頭本間山城  
兵衛尉守護シ奉リテ建長六年甲寅十一月十八日  
十八歳ニテ薨セサセタマヒシト云傳ヘタリ 此宮薨シタマヒシ  
月日ハ多ク記セ  
シモノヲ見タレハコニ載ツ或家ノ記ニ大姫宮ハ嘉祿元年乙酉降誕  
アリテ弘安九年丙戌薨御嶋昭大明神ト崇メ思子姫宮ハ貞永改元  
忠ノ降誕ニテ建長九年己酉七月薨御玉嶋姫大明神ト仰キケル真  
神號トモ民ノミタミタルロイヒケケレハ一宮ニ宮三宮ヲ以テ稱シケルトイハリ己  
ラハ家ノ記セシ所モヒトシ 末社ノ神ハ 上皇供奉ノ人  
カニ子ハ本文ニハノセス  
甲斐右兵衛佐範經藤左衛門大夫康光右兵衛佐ノ  
局等ヲ祀ルト古キ物ニ記セリサレハニヤ元祿中ノ官  
籍ニモ唯末社トノ記サレテ他祠ノ例ニトナリ近キ

コ口里民ノ望ミニヨリテ神號十カラムニハ悪カルヘシ  
トテ諏訪明神ト名ツケシトイヘリ歎カハシキコト  
ナリ此ヤシロノ地殺生ヲ禁セラレ以下三條ノ制札  
ヲ立タリ後ニ橋ノ先行ト云人來リテ西濱ノ橋  
村ニモ三宮大明神ノ祠ヲ崇メ祭リ宮ノ浦トイハ  
リノ祠ノ神躰ハ彼ノ先行カ石ヲ以テキサミ奉リ  
シトイヘリ

大宮權現 相殿 二宮權現

地貳町壹畝

加茂郡上新穂村ニアリ別當ノ縁起ニ嘉  
禄二年丙戌ニ創ルト記ス祠官ヲノ家ニ天福元  
年癸巳ニ始ルヨシヲ記シテ七八年ノ久カヒアルナリ其  
傳フル所ヲ係セ考ルニ

順徳上皇遷幸アラセタマヒ之後池藏人權頭比叡

山ニ登リテ日吉ノ祠ニ祈ル趣アリ遂ニ武家ノユルニテ

得テ此國ニ下リ著<sup>著</sup>シカミノコトモ奏天ニツ、地ヲ撰ヒテ

山王七社ヲ建トイヘリ今モ國ノ内ニ雙ヒナキ大社

ニシテ總別當新延寺ノ外衆徒十二坊アリ上新穂ニ  
宝性院

金剛院三諦坊下新穂ニ弥勒院曼荼羅院寶藏寺儀定坊  
定光坊北方村ニ圓通寺明王院善意寺万福寺己ニ比皆今ハ國分

寺ニ屬トイヘトモ祭儀ヲツトメ  
法樂ニ供スルコトハ新延寺ニ從ヘリ

七社各祠官アリ別當アルモアレト新延寺コレヲ總

ルトイヘリ其餘神人巫女ニ至リテ取タカレヘシ祭式ノ

正ニキコトモ此國ニシテハ雙ヒナシトウ其中ニ七日ノ齋

七度半ノ使南北ノ流鑄馬ナト、テ古ヘアリノ遺レ

ルコトモ多ク神樂ノ歌モ久シキ世ヨリノコト、イヘリ

コノカミノオニハノマツノモトニケルエタモロ

トモニクミモサカユル

四月中ノ申ノ日神璽七ツヲ昇<sup>カ</sup>リテサマミノ神ワ

サアリ昔ハ湖水ノホトリマテ至リツレト天正ノ後ハ三四

所ノホトニテ止マルトイヘリ  
今モ此祭式ニ用ルサカ木ハカナラズ  
沼上村行屋トイフ所ニテ取ナリ  
コハ湖水ノホトリナレハナリコレノ  
コトモ故實ニツアルヘキ此祠殺生ヲ禁示セラル以下  
三ヶ條ノ制札ヲ賜ハリテ建タリ

聖真子權現 相殿十禪師權現

地三段四畝貳拾四歩

雜太郡船代村ニアリ七社ノ内ナリ

八王子權現

地四畝

加茂郡井内村ニアリ右ニ同之

客人權現 相殿三宮權現

地八段八畝貳拾歩

加茂郡大野村ニアリ右ニ同之

熊野權現

地四段七畝九歩

雜太郡畑本郷ニアリ其初メ詳ナラス

縁起一巻ア  
トモ證トスルニ

タラスサレハ  
コトニトラス夕、ナギヤミロト知ラレテ

順徳上皇ノ御製トイヒ傳ヘタルナカニ

クモノウヘノツキヒヘタテ、ミクマノモ  
タマナキカケハカハラサリケリ

彼忠子ノ宮ノ御歌ニ織橋トヨミタマヒシモコノ神垣  
ニ裡近ク今モ其橋アリテ古キ名残レリ天正頃  
マテハ雙ヒナキ大社ニテツアリケル此祠官ノ家ニ傳フル  
黒金安藝守カ證状アリ左ニ記ス

一 祊<sup>ミ</sup>持分相違母々々<sup>カ</sup>如先々

熊野水官水用ホ是次<sup>カ</sup>申ス也

天正七年 九月拾日 尚信

中川長多信及

此社ノ地ト云々ナロヘ此拜殿ニ

順徳上皇ノ宸筆ノ日神殿ノ額アリシヲイツノコロカ

糺太郡ノ山田村ノ行貝ト云所ノ羽黒權現ノ祠ニ

移セシヨシニテイマカシコニアルナリ

熊野權現

地壹段壹畝拾貳歩

野土六畝拾歩

租税悉免ナル

羽<sup>茂</sup>茂郡大石村ニアリソノ始ノ詳ナラス弘安七年

甲申八月元亨二年八月ノ棟札アリ始メテ建  
シハ古キコト、知ラレタリ

諏訪大明神

地五畝五歩

田貳段九畝拾七歩

租税悉免カレ

田六段壹畝貳拾壹歩

租税五分ノ四ヲ免カレ

田壹畝拾五歩

租税三分ノ一ヲ免カレ

圃貳町壹段歩

租税悉免カレ

野五段貳畝七歩

租税同右

雑太郡河原田町ニアリ此社古クヨリアリシニヤ  
河原田ノ内ニ今モ諏訪町トイフ地名アリ七月廿七  
ノ祭儀元龜天正ノヨ地頭ノ領セシ時ヨリ傳傳ハリテ  
今ニ廢セストイヘリ

羽黒權現

地六町四段七畝拾五歩

米五石四斗

田壹段貳畝拾六歩

租税悉免カレ

田壹段四畝七歩

租税半ヲ免カレ

田八段六畝九歩

租税三分ノ一ヨ免サレ

圃貳畝拾五歩

租税悉免サレ

野三段五畝貳拾五歩

租税悉免サレ

加茂郡羽黒村ニアリ上古ハ吉井本郷ノウチ安

養寺トイフ処ニアリシヲイツノ頃ヨリカコニ移セシトイハ

永仁三年ノ古鐘アリ堂社并鳥居橋十トヲ修スル

トキ官林ノ材ヲ賜ハル古例ナリ

金北山権現

除米五拾八石七斗九升五合六夕

此山ノ開ケニ始知ルハラスリノ地廣ク加茂雜太ノ

二郡<sup>ニカ</sup>ワタリテ北佐渡高山ノ絶頂ニアリ祭神火ノ

神軻過突智トモイヒ本地勝軍地藏菩薩ト

モイヘリ古ク傳フルトコロハ始メ僅ノ禿社ナリシヲ

雜太ノ地頭本間信濃守始テ造営ス年経テ

慶長中ニイタリ國司大久保石見守フタヒ脩造シテ

一國ノ惣鎮守トスコレヨリ永ク官材ヲ以テ造営セラレ

コトハナリス斯テ元禄ノ檢地ニモ此山ノミ其下ニ

ヨハカリシトナリ其地高崇ニシテ輒モスレハ烈風雷震

クメニ御堂破損スルコトアリソノタヒニ官ヨリ造営セラ



ル、故寶形作、露盤ニ金箔ニ漆シテ御紋ヲ  
居ヘラレ、コト古例ナリ此山雪ノ消レト遅ク秋ノ半  
ヨリ寒風烈シキヲ以テワツカニ七八月ノアイタノミ  
國人參詣スルナリ

### 八幡宮

地三段歩

米拾石三斗六升八合

田八段二畝貳拾歩

野三段歩

雜太郡八幡村ニアリ此アタリ往古ハ砂濱ニテ  
塩風荒ク往來ノ人面ヲ向ケカタクアリシヲ明曆  
萬治ノ頃ヨリ松苗ヲ植テ砂垣トイフモノヲ作り數  
十年ヲ経テ民ノ棲家モヤ、開ケシナレ正徳享保  
ノ頃マテ小松ノミ生セトイヒ傳ヘタリ後人八幡ノ  
皇居跡ナトイフコトハミ臆説ナレニ此社脩造  
ノ時官林ノ枝ヲ賜ハレ古例ナリ

八幡村領金丸橋下川並、砂堀習

新成川郷並古川並新川並、の向中橋

此等ハ是モハ八幡宮社領中橋度也

往古ハ八幡村一系神願ニシテ少理ハ均無  
越後上皇御支配之時新皇上ノ御唯  
今少上皇御紀ノ糸成子也皇孫孫仕  
彰回少成在攝中一度ハ  
之様以長久ノ新皇上ノ御紀  
之休甘ニシテハ新皇上ノ御紀  
ニ抽意誠ハ以テ

寛永五年辰

八幡新皇

三月十一日

刑部平

*(Faint background text, possibly bleed-through from the reverse side)*

作村九郎右衛門殿

中役

茂原平

忠信信平

名川堀留之若孫仕皇守川中堀進  
芝間ノ御紀新皇上ノ御紀  
之皇孫國雅人此代官ニル在右ノ理  
之皇孫中堀木末代ノ院人ニシテハ皇孫ノ  
川原ノ御紀皇孫中堀人志ニ以様  
裏判仕ハ以テ

*(Faint background text, possibly bleed-through from the reverse side)*

寛永五年

辰三月十五日 竹村五郎左衛門 宗判

八幡宮

地貳所壹段歩

田四段壹畝貳拾七歩

野四畝八歩

米貳拾九石貳升三合三夕

加茂郡下久知村ニアリ應和元年辛酉草創  
ストイフ本社拜殿又ハ鳥居修造ノ時官林

租税三分ノ一ヲ免サレ

租税悉ク免サレ

杖ヲ賜ル例ナリ

小布施大明神

地壹段歩

圃三段四畝貳拾六歩

野五畝三歩

米七斗壹升壹合四夕

羽茂郡西三川村ニアリ明德五年甲戌五月、  
棟札ニ羽茂郡三河ト記セリ

租税悉ク免サレ

租税同右

牛頭天王

合殿

八王子

地貳段五畝拾歩

租税悉免サレ

田壹段貳畝歩

羽<sup>茂</sup>郡羽茂本郷ニアリ此祠應永二十年ト

亨禄ノ棟札アレトモイフカシキモノナリ文化改元

甲子ノ歳社人天澤豊前ノ實因ト云モノノ病アリ

テ此神ニ祈リケルニ櫻花<sup>株</sup>ヲ栽ハシノ病愈

ヘシト夢ミテ教ノ如クセシカハ平愈シテ七十餘歳ノ

壽ヲ保チケルトイヒ傳ヘタリ

大山祇社

地貳町七段壹畝拾貳歩

野壹段七畝拾八歩

租税悉免サレ

社料米五拾苞

春夏冬三季ニ請取

御祈禱料米三石五斗宛<sup>宛</sup>毎月請取

同錢四貫四拾八文宛

正九月請取

湯立料五貫文宛

毎月請取

雜太郡相川山ノ神ニアリ此社ノ始リハ慶長ノ

始ヨリ相川ノ山々ニ金銀ヲ出スコト往時ニ百倍

シケレハ慶長十年乙巳國司大久保石見守長安  
 始テ此処ニ社ヲ造リ安園長門ト云モノヲ石州ヨリ  
 コニ移ラシメテ祭祀ノコトヲ主ラシム同十二年丁未  
 長安關東ニ申旨アリテ京都吉田家ト部  
 朝臣兼治此國ニ渡海シ火山姫命ヲ勸請シ  
 テ永ク金銀山ノ鎮守ト定ム此時社領五十疋  
 外ニ月々三石五斗ツツヲ賜ハルコトナリ又兼治渡  
 海ノトキ<sup>過</sup>將監トイフモノニテ官船ヲ以テ送迎セラレトイヘリ又社領  
 御祈禱科ノ外ニ電役トモノヲ始テ毎月相川ノ市中ヨリ銀喜買<sup>壹</sup>  
 目ヲ買セシメテ社人ニ賜ハリシカ其後電役ヲ止テ銀山ニ出スル  
 荷<sup>ノ</sup>鍊貳拾五荷ニツキ壹荷ツ山ノ神鍊ト唱ヘ印銀ニカテコレヲタマハル  
 萬治三年ヨリ山ノ神鍊ヲモ公納トシテ月印銀百目宛正五九月ニ印  
 銀八拾壹匁ヲタマハリ社殿ノ修造ニ官費ヲ以テ營スルコト永式トナル  
 トイフ

住吉大明神

地五段八畝歩

田貳畝貳拾五歩

圃九畝貳拾四歩

墅七畝貳拾歩

加茂<sup>茂</sup>郡住吉村ニアリ慶長四年上秋家ノ

臣須賀修理カ此社ノ祠官トヲホシキモノナリ

タエシ古文書コノ村ノ民家ニ傳ヘタルアリ

租稅三分ノ一免ル

租稅悉免サレ

租稅同右

のゝまんもち

三百口十米蒔

右に重不実也

慶也

潤三月十四日

次かえり

しきり

中務

菅原天神

地七段壹畝歩

田五段五畝貳拾四歩 租税悉免ナレ

羽茂郡羽茂本郷ニアリコノ社ニ傳ヘニ縁記

元禄ノ頃ニ焼失シテ詳ナルコトヲニラス別當養觀

寺ノ寺中ニオイテ村民等昔ヨリ月次ノ連歌

正五九月官廳ニ収ル例ナリ

天満宮

地三段四畝歩

雜太郡相川弥十郎所ノ北ノ淺澗ニアリ傳ヘイフ

モト國府松山大願寺ノ鎮守ナリシカ越後ノ兵此

所へ攻入テ火ヲ放チシ時其像ヲ取テサメテ越  
後國象王村極樂寺ニ移シ置ヌソノ後河内  
度左エ門吉久此國ノコトウケタマハリタル時關東  
ニ上ルコトアリ歸路出雲崎ノ湊ニ風ヲ待ツアル夜マカ  
シキ夢ノ告アリ再此國ニウツシテニ宮ノ觀喜寺ニ  
置コホ吉久カ居タル河原田ノ城ヨリ近ケレハナレニ  
イクホトナク相川ノ地府中トナリケルニウ丸山ト云  
一所ニ移シ崇ム慶長十年乙巳大久保長安關東  
ニ申上ヨアリテ始テ今ノ所ニ宮居造リ彼松山大  
願ノ僧ヨリ以テ別當ニ定メ月次ノ連歌ノ料拾石

年々賜ルコトナリヌ

加茂<sup>茂</sup>大神宮

地三拾七町八畝拾歩

田壹町七段六畝拾七歩 租税二分ノ一ヲ免ル

圃壹町五畝拾壹歩 租税悉免サル

野壹町三段八畝拾壹歩 租税同右

米七石九斗六升八夕

雜太郡粟野江村ニアリ傳テイフ天仁二年加茂

二郎義綱朝臣流サレタマヒシ時此社ノ拜殿ヲタ

テラレ年経テ永徳元年ニ至リ本社ヲ造営ス  
トイフサレト其コト正シク記セシモノナケレハ信スルニタラス  
此國ノ郡境ヲ記セシモノニ雜太郡ト加茂郡トノ  
境東ハ大田甲ノ類中ハ加茂宮ト記セシコトノ社  
ノコトニヤアルヘキ明暦元年ニ郡境ヲ改ラレシ時  
モ此社ノ末社金立明神ノ社ヲ以テ境ト定メラ  
レシニテシルヘシ末社ノ神ハ諏訪明神ト金立明神  
トヲ祭レリ金立ハ玉依姫ノ尊ヲ祭ルトイヘリ

松崎大明神

地壹段壹畝拾貳步

田八畝拾三步

野五畝八步

羽茂郡松ヶ崎村ニアリ其始メ詳ナラス

租税三分ノヲ免サレ

租税悉免サレ

春日大明神

地六段貳拾步

雜太郡下戸村ニアリ古記ヲ按スルニ西濱ノ内ニ

昔姫大神宮トイヘシ社アリ慶長十二年コニ移シ

テ春日大明神ト崇メ其コト部朝臣兼治郷



コノ國ニ下向ノトキ祠官津田ナルモノ申請ヒテ  
勸請セリ是ヨリシテ今モ官ヨリ修造セラルトナリ

荒貴大明神

地七段壹畝拾貳歩

田壹町四段六畝貳拾壹歩 租税三分ノ一ヲ免サレ

米七石貳斗四升七合五勺

雜太郡和泉村阿良氣ト云処ニアリ上古ノ社トイヒ

傳ヘタレト徴トスヘキ記録ナシ後人考ヲマツニ拜殿

ハ元亨ノ頃造リタリト記セリ

后大明神

地壹段五畝拾八歩

田四段貳拾八歩 租税悉ク免サレ

田九段三畝拾壹歩 租税十分ノ一ヲ免サレ

羽茂<sup>茂</sup>郡小木町ニアリ来曆分明ナラス

善知鳥大明神

地壹段八畝歩

田九段壹歩

租税悉免サレ

米貳斗

雜太郡下戸村ニテリ善知鳥ハ地名ニシテ七浦ノ  
惣名ト云傳ヘタリ年久シキコトナレハ充分明ナラス今ハ  
相川ノ鎮守トスルナリ九月十九日ノ祭儀ニ神輿ヲ  
早振テ府治ノ門ニ至ルコトソノ始メ詳ナラス

佐渡志

佛寺

佛法東ニ流レテヨリ日ニ盛ニ月ニ行ハレシカハ國分  
寺ノタクヒハイフニ及ハス國々ノ民相競ヒ資産ヲ  
傾ケテ寺塔ヲ作り田園ヲ棄テ佛地トナスシカセサレ  
モノハ人ノ數ニ入サリシト延喜年中三善清行朝臣、  
タテマツラレシ封事ノ中ニ見エタレハ本朝此國ノ寺モ遠  
ク其頃ヨリ建タルヤ多カラム其後地頭ノ時ニ至リテ  
各其地ヲ裂タモテ寺々テ堂作ル事ノ多キヲ以テ  
相誇リシ折シモ釋門宗流ヲ唱ルモノアマツ世ニ起リ

テ其徒海内ニミナシタレハ彼ニツキ此ニツキイヨミ  
 寺ノ數モ多キヲ加ヘタルニシテハ古ヘコノ國ニ名アリ  
 シ寺ハ今ハ跡カタクナリタルモアリテ其什器他邦ニ  
 流傳スルモノスクナカラス山城國西園來迎院ノ鐘  
 夕クヒ是ナリ扶桑鐘銘集ニ奉鑄造梵鐘大日本國佐列  
 羽茂郡常樂院常什諸行無常是生滅法生滅  
滅々已寂滅已樂經田畝五間中右十七清淨量性取種、色觸三種水  
 空地空雨妙々聲主眷屬祝曰皇風永扇帝道遐曰天長地久國土  
 安康弘長壬戌林鐘日治  
 大正藤原某ノ九十六字彫トイリ上叔氏コノヲ取テ破却セシ  
 寺多シ又其時アラタニ建タルモアルニヤ慶長中相川ノ  
 銀山盛リヲ得テ市街開ケ四方ノ人夥シク聚リタレハ  
 コノニモ多クノ寺ヲ作り又四五十年ノ後銀山衰へ人去

ニ從ヒ寺ノ數モマタ半ヲ減セリ正保ヨリ元禄ノ初マテニ  
 相川ノ寺ノ廢セシハ眞言宗  
 見性寺地藏寺遍照院密藏院明王寺禪宗慈德寺圓通寺  
 泉龍寺常徳寺光徳寺長栄寺廣誓寺西福寺淨土宗安養寺  
 光明寺親鸞宗安樂寺敬音寺淨福寺證誠寺光源寺淨願寺  
 三乘寺大唱寺眞敬寺照見寺長学寺順光寺專福寺光徳寺妙  
 願寺西入寺長願寺西光寺高專寺蓮照寺淨徳寺雲正寺勝安  
 寺正立寺日蓮宗本行寺感徳寺本照寺妙栄寺時宗極樂寺其ヨ  
尚多ケレト其跡ノサタカナラズト  
 宗流ノ明ラカナラズラハ省キツ然リトイヘトモ國中ノ寺々今  
 アレトコロ尚多ケレハコトミクコニ誌シテ併セテ佛堂ト  
 修驗家トニ及フ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 正光寺, 天台宗, and 江戸東叡山.

正光寺

天台宗江戸東叡山寛永寺末寺

寺ハ羽黒權現ノ社地ニアリ

田<sup>貳</sup>敷<sup>貳</sup>所三段六畝拾八歩 租税半ヲ免サレ

加茂郡羽黒村ニアリ羽黒權現ノ別當タリ此寺

基ヲ創メシハイツノコロニヤ傳ル所ナシ永仁三年

乙未ノ古鐘アリ左ニ出ス

佐品羽黒山正光寺

奉施入権鐘一口長三尺

右奉移志者為陸奥守平朝臣所祈禱

並緒縁助成乃至天下法界平等利益

故也

銅匠藤原守重

沙彌 能主

院主 僧 信性

敬白

永仁三年乙未九月日

當寺ハモト天台宗ナリシカ中ヨリ真言ニ移リ  
シヲ寛永十七年古キニ復シテ天台ニ歸伏セシ  
ヨシ天海僧正ノ免状アリ

佐渡國羽黒山正光寺

東照宮大権現於御寶前ニ闕且皆

勤行ニ致天下安全ニ御祈禱身神

社人如先例羽黒社系

東照丈権現御官ニ徳彼テ勤行

一 復先親挹名家ニ流於良田長樂寺

引直獲摩令執事ニ之ニ吾門流在傳

書長樂寺ニ法流不可更解流事

一 可專戒律若於乱行傳云早ニ致追致

於源甚志

師弟子凡之為同罪事

一為門徒徒寄在寺下知自別尚并服坊之  
門家之姓亦如先親社儀處養了仕事  
在條之與之如也

寬永十九年極月十七日

山門三院執行探題大僧正天海

依別羽黑山者徒先親雖為山門末吉系勝  
入國以來依彼改真言宗後先親今度  
天立宗歸仗之安神如也自今以後孫也

國三台宗法流於神前

東照大權現御法樂天下安全御祈禱

願諸士不可有怠慢也

寬永十七年六月廿二日

山門三院執行探題法尔大僧正天海

依後羽黑山

正光寺

新延寺延命院 天台宗江戸東叡山寛永寺末寺

地三段四畝貳拾歩

田五畝拾四歩

租税三分一ヲ免サレ

圃壹段三畝歩

租税悉免サレ

野三畝八歩

租税右ニ同シ

加茂郡上新穂村ニアリ嘉禄二年丙戌開

基ストイフ

順徳上皇遷幸ノ後池藏人権頭清範叡山

日吉ノ社ニ祈ヒトアリテ武家ノユルニテ得テ此

國ニ下リ地ヲ撰テ山王七社ヲ立テ新延寺ヲ

以テ別當職ヲ總司ラシメラル大宮権現ノ条其後

遙ニ年ヲ経テ寛永十八年當時ノ任職朝尊

カ時ニ天海大僧正ニ附テ永ク其法流ヲ汲ムコトヲ

願フ天海僧正天台ノ舊跡大宮ノ社ト共ニ年久

シク更ニ落セシヲイタシ且其志願ヲ憐テ執テ一國

天台ノ觸頭ヲ延命院ニユルニ自今山門ノ属トシテ

天下安全ノ祈ヲスキスヘキム子ノ免状アリ

依渡國賀後郡新穂庄日吉山山王

権現ト水國ト其ト双々ト大社也ト維ト然ト天ト正ト

年中依逆亂零落能加真言宗南  
小原<sup>徒</sup>德法勅以名家法流于今是遠  
摺以執以去續之有復天名受神妙  
之至也自今以後跡山門屬主未之間  
抽天下安全精<sup>新</sup>弘法與隆子可存  
急惶志也

寬永十八年七月十日

山門三院執行探題大僧正天海

日吉山 新延寺  
七社<sup>徒</sup>在<sup>徒</sup>中

依渡國日吉山新延寺  
傳教大師能為開奉礼國以集法流  
退摺之受以度朝旨多之於門直  
之候神妙之初也自今以後南小  
門中跡名家守法流佛事勅以  
社役亦別 与天下安全御新禱奇  
存急惶志也

寬永十九年九月十日

山門三院執行探題大僧正天海



蓮華峯寺

真言宗京智積院ノ末寺

地五百四拾九町三段六畝

羽茂郡小比叡村ニアリ傳フル所ハ此國遠ク

白皇京ノ良ニアタリテイハユル鬼門ノ方ナレハ鎮護

ノタメニ大同ノ初空海此山ヲ開キテ小比叡山下名

ツケ寺ヲ蓮華峯寺ト名ツク

真言ノ徒大和ノ室生寺紀伊ノ金剛部寺トナ

蓮華峯寺トナ佛金蓮ノ三部ニテテ同ク靈地トストイハ

嵯峨天皇ノ御時ニ

勅願ノ寺トセラレシトワシカレ

トモ承應ノ火災ニヨリテ今傳ハレレ記録モナケレ

其コトサタカナラスコノ鎮守ノ神山王ノ祠ニテヨク

アリテ火災ニモレタリトイフ額アリツレニシレセシヲ

是求佛神一以真言寺廣明護國作ノ十五

字ヲ彫テ由アルサマニ見エタリ此額空海ノ書トイ

ヒツタヘタレトモ文字ノスカタ筆ノココハ空海ニハ

似ナルニヤサレトモ昔ノ能書ノカキタレモノニ疑フヘ

クモアラス又蓮華峯寺ノ四字ヲ署書ノ躰ニ

書タル額アリ裏書ノ文字半ハ消テサタカナラス

仁和寺成就院僧正益守左大臣殿子近江國

石山座主元應二年庚申六月八日ノ字簿ヲ見

エタリ是ヲノ外ハ古キ物傳ハラス古ヘヨリ小比叡

一村其餘西方羽茂<sup>茂</sup>本郷清士園大石村山  
小泊椿尾西三川倉谷井坪大浦等ノ村  
内ニテ九拾石五斗ノ地ヲ領シ慶安元年戊子十  
月廿四日初テ御朱印ヲ賜ルセ々ノ僧住  
職ノ時ナラヒニ七八九年ノハ十一度

營中拜禮ノコトアリ

拜禮トキ十帖一本ヲ獻シ  
御暇トキ時服ニ領ヲ賜ル例也同ニキ

三年ノコロノ古文書官庫ニ残りテ寛政ノ火災ニ  
燒クルヲ其前ニ寫セシ物アルヲ見レハ前將軍家

ノ下ニ文ハ三通マテアリシヨシナレトコレヲ皆承應ノ  
火災ニ燒シナルヘシ此承應ノ火災トイフハ承應元年辰三月  
過藤左門信俊トイフモ、又子家ノ子ニ

人、カリ官廳ニ叛キテアコノ寺ノ住僧快慶ト心ヲ合セ衆徒ヲアツテ多  
筆ルコトアリ討キノ兵寺ヲ攻テ火ヲ放チシカハ籠ル者防キ戦ヒテアルハ  
死シ或ハ落ウセ事平ラキ又木坊此山ニアル空海ノ木像ハ  
庫裏寶藏災ニ罹リ諸堂殘レリ此山ニアル空海ノ木像ハ

貞觀十一年己丑醍醐寺ノ聖寶僧正コニキタリ  
榧ノ木ヲ以テ刻ミシヨシ彼像ノ跌坐ノ裏書ニ記セリ

トイフ又燈籠堂ハ上杖氏ノ始メテ作レリナリトワ  
此寺下馬札アリ又殺生ヲ禁セラル以下三條ノ  
制札ヲ賜ハリテ惣門ニ立ツ

### 真光寺

山城國醍醐山光其堂院ノ末寺

地三拾町九段五畝五歩

田拾町三段九畝五步

租税悉免カレ

田貳町六畝拾三步

租税六分、五分免カレ

圃壹段三畝六步

租税悉免カレ

野壹段八畝貳拾三步

租税同右

雜太郡真光寺村ニアリ弘仁ノ頃基ヲ開キテ十口ハ

雲上寺ト名ツケシトモイヒマタ靈松寺トイヒシトモ

シルモタルモノアリ其寺ノ傳ワル所ハ勅願ノ寺ニテアリ

シトイヘトモ世遠ケレハ徵トスヘキコトナシ北山權現ノ

別當トナリシハ遙ニ後ノ事トミエタリ其餘ノコト

總テシルセシモノナシ此寺ノ住僧任職ノトキ及ヒ七

八年ノ内ニ一度々江戸ニ登リテ拜禮ヲ遂ケ

マタ將軍家御世續セラレコトニ拜禮ヲツトムト

イハリ拜禮ノトキ一束一本ヲ獻シ此寺ニ異邦ヨリ

渡リシトイフ鐘アリナシノタクヒニアラス五ニ稀

ナルモノトオモハレモトハ久知郷長安寺ノ物ナリ

シヲ上叔カ兵彼寺ヨリ奪ヒテマニオクリシト

イフ佛画アマタアレトモ悉ク記シカタシコノ地

殺生ヲ禁セラル以下三條ノ制札ヲタテタリ

清水寺

真言宗真光寺末寺

地壹段壹畝<sup>貳</sup>拾貳步 租税悉免カレ

加茂郡石名村ニアリ清水寺川ノ川上ニ檀

時<sup>特</sup>山ト名ツクルアリテ釋迦ヲ安置シ梵字水ノ

名タカシ大同二年ノ草創トイヘト殊ニ分明

ナラス赤子唐ノ代ノ銅鐸アリ振聲清亮ニ

テ凡品ニアラス寺僧ノ傳フルトコロハ空海歸朝

ノ時惠<sup>果</sup>果和尚ヨリ將來ノ物ノ一ツトイヒツ

タヘタリ

國分寺

真言宗山城國醍醐山報恩院末寺

地百七町八段八畝

租税悉免カレ

田貳町貳段壹畝四步

租税半ヲ免カレ

田四段四畝拾貳步

租税三分ノ一ヲ免カレ

雜太郡古府ノ南ニアリ今ハ此アタリ一ツノ里

トナリテ國分寺村ト名ツク聖武天皇天平九年

丁丑天下ニ詔シテ國毎ニ國分寺ヲ建ラレアルハ

法華經ヲ写サシメ金光明經ヲ講セシメアルハ

七層ノ塔ヲ作り四天王ノ像ヲ置レシトイフサリ<sup>+</sup>

續日本記此國ノ國分寺モマタミカワアルヘキ<sup>七層</sup>  
九<sup>九</sup>亨釋書

礎ハ今残レリ神護景雲二年戊申三月北陸道  
使右中弁正五位下豊野真人出雲トイフ人奏  
シケルハ佐渡國國分寺料稻壹萬束年々支ヘ  
テ越後國ニアリ常ニ農月ニアタリテ後夫ヨ差テ  
コレヲ運漕スルニ海路風波ニ隔ラレヤ、モスル數月  
ヲ歷ツ漂損アルニ至テ復運脚ヲ徵レヌ請フ當國  
ノ田租割テ用度ニ充レト乃チ其請フ所ヲ許許サル  
續日其後又新造藥子佛燈分料五百束  
文珠會料壹千束加ヘラレキ承和十一年  
甲子佐渡ノ國司ノタテマツリシ國解ニ國分寺

ノ僧尼ノ度縁戒條ヲ國庫ニ納ムコトヲ申セシニ  
ヨリテ大政官符ヲナシ下サレシコトアリ類聚其  
文ヲ見ルニ此國ニ尼寺モアリタレニヤトソ思ハレ、  
總テツノゴロハ僧徒モ多ク一方ノ大伽藍ニテ天台  
真言ニ宗ヲ兼ツ学ヒケルトナリサレト世カハリ時  
移リテ中世ニ及ヒテハ萬ツムカシノサマニアラサリシ  
ト見エタリ別當讓狀初メ天下ニ作ラレシ寺ハ正  
安ノコロ雷火ニ燒フタヒ建シモ享了祿二年己丑  
災ニカハリテ悉クヤケヌ今モ寺ノアタリノ地ヲ窺チ  
テ稀ニ天平ノ瓦ヲ得ルコトアリ古色觀ツヘシ多ク

得易キモノハ後ニ修セシ時ノ尾ナリトイフナレハ  
古キ記録トモ傳ハルコトナシ地頭ノ時ノ下ニ文總ニ  
残レリ爰ニ一二ヲ出ス

在キ志お杖<sup>ニ</sup>お与<sup>ス</sup>ハをむか<sup>ハ</sup>海<sup>ニ</sup>  
南ハうさ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>うさ<sup>ハ</sup>の川西<sup>ニ</sup>と<sup>ス</sup>う<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>并<sup>ニ</sup>  
左<sup>ニ</sup>ハ及<sup>リ</sup>強<sup>ク</sup>峯<sup>ノ</sup>ほ<sup>リ</sup>う<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>東<sup>ニ</sup>ハ<sup>ハ</sup>つ<sup>チ</sup>  
やす<sup>ク</sup>道<sup>ノ</sup>と<sup>ス</sup>り<sup>ハ</sup>そのほ<sup>リ</sup>地<sup>内</sup>の  
田<sup>留</sup>さ<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>む<sup>ハ</sup>思<sup>ハ</sup>つ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>せ<sup>テ</sup>  
近<sup>ク</sup>お<sup>ハ</sup>仍<sup>ニ</sup>る<sup>ハ</sup>後<sup>ノ</sup>う<sup>ハ</sup>杖<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>件<sup>ニ</sup>

延慶元年五月吉日 左衛門佐泰宣判

宛<sup>ル</sup>ル

佐渡國國分寺別当藏波多御内  
新田一所林一段下高米六斗<sup>五</sup>  
存泰家進志也

右お彼別当藏<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>但<sup>ニ</sup>る<sup>ハ</sup>坊<sup>宛</sup>宛<sup>ル</sup>ル  
所也少破<sup>ク</sup>時<sup>ニ</sup>且<sup>ニ</sup>て<sup>ハ</sup>較<sup>シ</sup>修<sup>リ</sup>理<sup>ス</sup>也  
仍<sup>ニ</sup>宛<sup>ル</sup>杖<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>件<sup>ニ</sup>

貞治五年七月廿三日

判

左衛門尉友

順徳上皇遷幸ノハシメ此寺ヲ假ノ御坐トセサセ

タマヒキ後真野ノ山陵ノコトヲモウケタマハリ赤寺

真輪寺シテコレヲ守ラシム延寶七年己未國分

寺ノ僧賢教カ願ニヨリテ國司曾根吉正兵部

江戸ニ申ス旨アリヤカテ兵衛陵ヲ修セラレ倭ノ山陵

且賢教ニ營中拜禮ノコト仰下サレテ明ル八年

庚申三月十五日其事ヲ遂シヨリ永キ例トハ

ナリ又是御後任職僧時任職時拜禮拾帖一卷ヲタテマツ

傳ヘイフ此寺ノ本尊藥師ノ像ハ古ク傳ハレル

物ニテ山ヲ醫國王山ト名ツケシモコレニヨリトフ又

毘沙門天ノ像ハ天平ニ置レシ四天王ノ像ノ一ツ

ニシテコレモ度々ノ火災ヲマヌカレシト也寺ノ南ニ

天神山天神林アリ古文章ニ見エシウサイカ澤ノ流レハコノ

ナラスルモアリカツコノ天神ノ祠ニ順徳上皇ノ書セタマハレ祈禱ニ

字ノ徧額アリケルヲ上杖ノ兵越後ニ移シテ國上村國上寺トスニ

イハレ鎮守ノ天神モト此山ニ崇メ置シカ後ニ寺

ノ傍ニ移セシトナリ寺中ノ坊宇モ昔ハ多スカリシヲ

白處々ニウツシテ門徒トナシ今ハ夕寂坊寶珠院

寂靜院觀行坊四ツノミ残レリ此寺ノ地殺生ヲ

禁セラレ以下三條ノ刹レヲ下ニ賜リテ總門ノ前ニ掲ケタリ

真輪寺

真言宗國分寺ノ末寺

地三町七畝四歩

田六段壹畝拾貳歩

租税三分ノ一ヲ免サレ

雜太郡 真野村ニヤリ天曆四年ノ開基トイ

ヒ傳ヘタリ

順徳上皇ノ御陵ハ國分寺ノ住僧マモリ奉ルニキ

トコロ程遠ケレハツノ末寺真輪寺カハリテマモリ

ケルニ延寶年中中國司曾根吉正江戸ニ申ス旨

アリ國分寺ハ營中拜禮ノコトヲ命セラレテ真輪

寺ニタマハルトコロノ證文左ニ記ス

覺

聖女控間

佐列雜郡

横小控間

以梓野子ニ在リ

竹田村之内

以左邊高八斗七升九合七勺

七斗五升九合七勺

布達地子

右ノ下 順徳院御座下為境内

從前末歲御寄附ノ旨御意申

此作渡ノ旨向後ニ有支配ハ為後日

仍々件



延寶七末九月十三日 曾根五郎多席判

志野山

志つ痛も

コレヨリ先ハ樵夫牧童ノ往返ニ穢シマ井ラセタ  
ルトコロナルニ此時ヨリ松ヲ植テ昔ノコトク陵ト称  
スルコトニナリ又真野川ハ古代泉澤トイヒテ  
文和四年 游行渡船上人渡海ノ記ニミエシ  
泉トイフハコレナリ今ノ和泉村ニアラス

此寺古ク寫傳ヘシ上皇コノ國ニテヨマセタマヒ  
ニ御製衣百首ノ和歌アリ古ヘテ觀ツヘキモノ  
ナレハコ、ニ出シツ

順徳院御製百首

風ワタル池ノ氷ノヒマヲアラミアラハレイツル鳩ノ下道  
今朝ノ間ハ光ノトカニ霞ハ日ヲ雲気ニカヘス春夕風  
フリツモル松ノ枯葉ノ深ケレハ雪マモオツキタテ 隠草  
難波カタ月ノ出シホノ夕洋ニウラノ霞ノ限ヨソミル  
夢サメテマタ捲アケス玉タレノヒマモトメテモ 白ク梅ノ香  
夕カシマヤアト川 柳風フケハスレス下 技ニカルシラナミ

アサミトリ霞ノ衣フク風ニハツル、イトヤ玉ノヲ柳  
夕霞消エク鳥ヤ雲鳥ノアヤ織ミタレ春ノ衣手  
帰ル鳥ナニタヤ秋ニカハルラム野辺ハミトリノ色ニラ行  
秋風ニマタコフ問ハメ津ノ國ノ生田ノ森林、春ノ曙  
花鳥ノ外ニモ春ノアリ白ニカスミテカ、ル山ノハ月  
雪トノミ布苗ノ山邊ハウツモレテ青葉ノ花ノ仰ナリケル  
散マカフ四方ノ櫻ヲコキマセテヌキモト、メス瀧ノ白糸  
ムスヒアヘス春ノ夢路ノホトナキニ幾度花ノ咲テ散ラム  
春ヨリモ花ニ幾日モナキモノヲシ井テモ惜メ鶯ノ聲  
ナクマ川春行水ハ澄ニケリ消テ幾日ノ峯ノ白雪

アシ鴨ノ羽カヒノ山ノ春ノイロニ獨マシラヌ岩ツシカナ  
河ノ瀬ニ秋ヲヤ残スモミナ葉ノウスキ色ナル山吹ノ花  
カケシヤレハヲラレヌ浪モヲラレナリ江ノ藤ノ春ノカサシニ  
ナケヤナケ信太ノ森林、呼子鳥終ニトマラス春ナラストモ  
山城ノ常磐石ノ森林ハ名ノミニテ下草イワク甘夏ハキニケリ  
誰シカモ松ノ尾山ノアフヒ草カツラニナカクナキリ初ケレ  
復ノ日ノ木ノ間モリタレ度ノ面ニ影マテミユル松ノヒトシホ  
今来トイハヌハカリソ子規アリ明ノ月ノムヲサノ空  
五月雨ノ雲井ニ高キ時鳥月ノカツラノカケ慕アラシ  
五月雨ハマヤノ軒ニ折ヌヘシサコソウキ田ノ森林ノシメ縄

峯ノ松入日涼キ山陰ノスツノ小田ニサナヘトルナリ  
トモシテ今霄モアケス玉クモツニムラ山ノ峰ノ横雲  
蚊遣火ノ煙ハ人ノシワサニテオノレ曇ラヌ復ノ夜ノ月  
曉ノ八聲ノ鳥モ徒ラニナカヌハカリニ明ルシカメ  
夕霞棚引山ノ雲ヨリモ色ノキシホニサケルナテシコ  
限リアレハ富士ノ雪ノ消モ日モ消ル氷室ノ山下柴  
村雨ノ雲フキスサフ夕風ニ一葉ツキル玉ノヲヤナキ  
夕立ノ雲ニ先タツ山風ニ秋ハナヒカヌ草ノ葉ソナキ  
ミソキスル加茂ノ川浪ユフカケテ紮ノ森ノ蛸ノ聲  
時シモアレ秋ナキ色モ年浪ノナカハ越行未ノ松山

小男鹿ノツレナキ妻モアルモノヲマツタ恨ノ星合ノ空  
秋風ヤ千種ナカラニ乱レケム花咲カハス宮城野ノ原  
人ナラス岩木モサラニ悲心シキハミツノ小嶋ノ秋ノ夕暮  
凡木ニ遠山人ハカヘルナリ里マテオクレ秋ノ三日月  
ハシ鷹<sup>雁</sup>トヤノノ浅茅フミ分テオノレモカヘル秋ノ狩人  
秋風ノ枝フキシラル木ノマヨリ且見エル山ノ端ノ月  
追風ニタナヒク雲ノハヤケレハ行トモ見エス秋ノ夜ノ月  
月見ヨト軒端ノ秋ノ音セスハサテモ子メハキ秋ノ子サメハ  
白露モ鷹ノナミクモオキナカラ杖袖染ル萩ノハハ風  
山鳥ノウラミモ秋ヤ重ヌラム八重タツ霧ノ中ノ隔ニ

フシワフルマカキノ竹ノ長キヨニ猶置アマル秋ノ白露  
山里ハ軒ハ松ヲ吹カラニ鹿ノ音ナラヌ秋風ソナキ  
カコツヘキ野原ノ露モ出ノ音モ我ヨリヨハキ秋ノ夕暮  
更科ノ山ノ嵐モ聲澄テ水曾ノ麻衣月ニウツナリ  
霧ハレハ明日モ来テ見ム鶉ナク岩田ノ小野ハ紅葉シタ  
風ナヒク雲ノ行キニ時雨フリムラニ青キ木々ノ  
一ヨミニシ十市ノ村ノハシモミシ又モ時雨テ秋風ソフク  
谷ワカキヤツラノ椿イク秋カ時雨ニモレテ年ノ経ヌラム  
幾年ノ秋ノ別ニオクレ居テフリソフ霜ノ消ルヨモナシ  
諸人ノ花スリ夜ヌキカヘテ袖ニコキ入モ秋見タニナシ

鐘ノ音ノ霜トナリユク明方ヤ蓬カ露モ氷リ初ケム  
冬ニ来テモ猶時アレヤ庭ノ菊ト色染ル四方ノ山嵐ニ  
三室山秋ノ時雨ニ染カヘテ霜枯ノコル木々ノシタ草  
吹風モイクタヒ道ニヨワルラムニナ霜枯ノ武藏野ノ原  
清見カタ雲モマカハス波ノ上ニ月ノ隈トル村ノ鳥カナ  
乱アミノ葉未ノ月ノ寒ル夜ハシノフニスレルツルノ毛衣  
芦ノ葉ニ隠レテ住シシホカマモ冬頭レテ煙タツナリ  
山オロシノ霰ツキシク篠條ノ上ニ鳥フミマヨウ今朝猶  
駒笛テシハシユカレハ橋ノ蜘蛛ニ白キケサノ泡雪  
吹拂フ雪氣ノ雲ノ絶ニヲ待ケル月ノ影ノサヤケサ

甲斐カ山嶺ハ山ノ姿モ埋レテ雪ノナカハニカ、ル白雲  
詠ヤル里タニ人ノ跡タエニ野中ノ松ニ雪ハアリツ、  
トリカサス日カケノカツラクリカヘニ千代トリ諷神ノミミ  
里ワカス春ノ隣ニナリニケリ雪間ノ梅ノ花化ノ夕風  
シケ山モワカク入テソシホルナル浅茅カ露ノカ、ラスモ早  
イカ、セム奥モ隠レヌ筈垣ノアヲハニ薄キ人ノココロヲ  
猶フカキオクトハキケト逢コトノ忍フヲ限ル戀ノ道カナ  
ヒルハ来ル遠山鳥ノ千キリタニナカキ思ヒニ乱レテワフル  
偽ノナキ世ナリトモイカ、セニ千キリテトハヌ夕暮ノ空  
千キラス十人ヲミルメノヨソナカラ心ノウラニ袖スラセトハ

尋テモミスメノ浦ニヤクモホノ煙ハソレト人モタノマニ  
鳥ノ音ノアカツキヨリモツラカリキ音セヌ人ノ夕暮ノ空  
逢トミテ覚ル夢路ノ名残タニ猶惜マル、アカツキノ空  
霄々ニ袖マキホサム人モカナ問クル月ハナミタワフナリ  
夢路ニカヨヒテシホル袖タニモ人ノナミタノスラシヤハスル  
消ヤラスナラハシモノヲ試テ玉ノ緒ハカリ幾世ヘヌラム  
雲井ニモタカ関守ノコモルラム通フ心ノ中ノヘタテハ  
月モナホ見シ面カケハカハリケリ泣ツルニテシ袖ノ涙ニ  
クレヲタニ猶待ワヒシ有明ノフカキ別ニナリニケルカナ  
三吉野ノ瀧ノ白淡落タキリ吹トモ風ノ聲モ聞ヘヌ

夕附日山ノアナタニナルマニ雲ノハタテソ色カハリコク  
クレストモ林鹿ノ里ニ宿カラム夜ヤハユカム山陰ノ道  
ス、分ルシノニタリハへ旅衣ホス日モミラス山ノミ夕道  
馴ニケル蘆屋ノ海士ノ哀ナリ一夜ニタニモ滞ル夕モトヲ  
笠屋敷枕ナカレヌウキ子トモ益ヤハミユルアラキ濱風  
イワテ船追風早クナリヌラン三保ノ浦ワニヨスル白浪  
シホ木ツム蜜ノ小船ソイワクナル心トタユヤトノ煙リニ  
ミルメホス濱ノ真砂ノ白妙ニ日影モナヒクヲミノ浦風  
葛城ノ神ヤ心ニ渡スラム明テトタユル夢ノウキハミ  
秋風ノ吹ウラカヘス小夜夜見ハテヌ夢ハ見ルカヒモナシ

カケロフノ命カケタル夕露ニ玉ノ緒ナカキ蛛ノ糸スチ  
キク度ニ衣トハカリイヒ捨テ幾世ノ又ノ夢ヲミツラム  
暮ル間モタノムモノトハナケレトモミラヌワ人ノ命ナリケル  
幾千代ノカケトカ神モチキリケム布苗ノ社ノ秋ノ下風

弘仁寺

京智積院ノ末寺

地四拾壹町九段四畝拾六步

羽<sup>茂</sup>郡羽茂本郷ニアリ傳ヘイフ弘仁年中

勅ヨリテ初テ此寺ヲ建空海ノ弟子ニ啟道

トイフ僧住タリミトリ世移リテ後羽茂ノ地頭

本間氏故アリテコニ倉庫ヲ建兵糧武具ヲ

ヲサメ置シヨリ山ヲ新倉ト名ツクトイヘリ天正中

上秋ノタメニ堂塔ミ十破却セラレマタ天和ノ頃

火災ニ罹リミカハ古キ物トテハタ、愛深明平

八祖トノ画像残レルノミ昔ノ鐘ハ越後ニ奪ハレ

テ彼國鉢寄ノ奥大泉寺ノ物トナレリトソ今ア

ル鐘ハ近キココ鑄タル物ナリ銘ノ文辭拙カラ子

ハコニ載ッ

佐別羽茂郡新倉山弘仁寺者人王

五十二代嵯峨天皇御宇我弘法大師

所創建也佛殿僧坊鐘樓經庫規

制豊麗實一方之壯觀也惜哉迨至

天和壬戌遭舞馬之變所有之淨基

盡為灰燼矣厥後締構漸復昔

輪與然猶無洪鐘報晨昏今住持

法印甚亮慨嘆有年去天明丙午  
之夏親上皇都捐淨財許多命  
冶工鑄銅鐘一口偉器已成徵銘於  
予峻拒不止迺為銘曰  
拔山願力 洪鐘再成 晨響媚々  
霄韻鏗々 喚起靜慮 勉勵梵行  
惟功惟德 億載無頽

前任智積院僧正勤潮書

禪長寺

真言宗弘仁寺ノ末寺

地貳町七段三畝拾八步

租稅悉免サレ

田六段貳拾五步

租稅同右

田壹段八畝貳拾四步

租稅三分ノ一免サレ

圃壹段壹畝拾五步

租稅悉免サレ

羽茂郡赤泊村ニアリ此寺ノ建シハシメテ詳ナラズト

イハトモ永仁六年戊戌ノ春冷泉中納言為兼

卿此國ニ配流ノ時越後ノ寺泊ヨリ船ヲ出シテ

此寺ニヤトラレシトイヒ傳傳タレハ古ヘヨリアリタリ寺ナレ

ハニ彼卿配所ニテヨマレシ殿寫シ傳ヘテ  
寺實トセリ遷流ノ部ニイタス



長谷寺

大和國小池坊ノ末寺

地貳拾貳町四段壹畝

雜太郡長谷村ニアリ山ヲ豊山ト名ツケテ

大和ノ泊瀬ノ趣ヲウツストイヘリ其寺ノ傳フ所

ハ大同三年戊子ニ初メテ建ツトイヘリサタカナラス

觀音ノ靈像アリテ土人深ク尊フナリ其餘フルキ

佛像多シ上枚ノ時ノ古文書一通アリ

田六期

長谷寺也其ノ形揚共古願無出遠

お渡川別り多々如急定多子尤

忍修傳言

古

兼續判

三月四日

多羽十左衛門殿

慶宮寺

山城國醍醐山釋迦院ノ末寺

田<sup>地</sup>八町七段五畝拾歩

野四段三畝拾七歩

租税米免ナレ

田貳町八段七畝二拾六歩

租税半ヲ免ナレ

圃三町壹段貳畝貳拾貳步租稅悉免サリ

雜太郡宮浦村ニアリ其始詳ナラス近キコト書タルモノニ大

二年丁亥、開基トアレトモ元祿ノ記ニ據ルニ妄説トオモル猶一宮大明神條下各見シ古ヘヨリ一宮大明神

ノ別當職ニテ山號ヲ神護山ト云ヘリ此寺ニ十六

善神ノ古画アリ廣キ絹ニ書テ精切ヲ畫セル

モノナリ空海ヨリ傳ヘタル物トイヘリマタ兩界ノ

曼陀羅コレモコトニ廣キ絹ニ金泥ヲモテ画ケルナリ

コレハ昔根来山ノ宝物ニテカノ山兵火ノ時アル

僧ヒツカニコレヲ推乃ヘテ此國ニ遁レ来リタリトイヘリ

ケニ尋常ノモノトハ見エサルナリ此處ノ地頭久知

加賀守カ一宮明神ニ納メタリトイフ大般若經全

部アリ保延長祿明德ノ間ノ写本ナリ卷コトニ

奥書アリ左ノ如シ

奉施入 久知加賀守直泰

生年ユナタ

明應十年醉卯月十九日

其餘保延長祿ノ年号ヲ記セシ卷モミエタリ三百ニテ卷

ト三百五十九卷ニ羽茂吉井雜太ニ攻ラレシヨシ記セシ

文字アリ一宮ノ祠ニ度マテ燒レシトアリ直泰ハ久知宮浦

兩所ノ地頭ナリ

清水寺

真言宗江戸護持院ノ末寺

地拾壹町七段九畝貳拾貳歩

地壹町四畝歩

田三町四段拾壹歩

租税半ヲ免サル

圃九段八畝拾八歩

租税悉免サル

墅四段歩

租税同右

加<sup>茂</sup>郡大野村ニアリ京ノ清水ノ趣ヲウツシ

大同年中ニ建トイヒ傳ヘタレト舊記ナケレハ

サタカナラス

長安寺

真言宗清水寺ノ末寺

地八段壹畝拾八歩

田六段五畝拾九歩

租税三分一ヲ免サル

加茂郡久知河内村ニアリ傳ヘイフ天長八年

辛亥基ヒラ開キ初ハ天長寺トイヒ八宗兼學

ノ寺ニテアリシトイヘリ觀應年中茵ノ中将ト聞ヘ

シ人此國ニ下リ世ノ乱レテ避テミニテ舞学ヲオ

コセシ時ノ古文書ヲノ餘古ク傳ハリタル文書ア

マタアリコニ一二ヲ出ス

久知口长安寺之中事

限东中尾道

限西久知大道

合置  
限南白土尾

限小二五道

右於寺中不可禁断致生之状为件

文永八年三月日

御使

右近卫尉后原

北條時宗到云

依渡國六箇郷日久知河長安寺  
先比内卷寺大塚山寺於寺内古氏等  
被持獵志以罪業之為也古自今  
以後不可令停止彼寺之中致生  
之旨可被加罰之由以候也仍執  
達以件

文永十年二月三日 沙汰定信

平野出羽守殿

奉寄進

長安寺佛生會田

并陸守白山御祭田

合四限半此田二限二月廿祭田

右由彼考念新田限永代奉寄進

爰也天長地又寶祚業運之被御

新務精誠仍寄進狀七件

正申元年八月五日

沙弥園光



久知以長安寺佛生會田志念浦仁

五限半之內先司代爰祓入道

半田於堪露之由尚且院至被歎

申之百且之佛供田之且之為公私

以新務為斗但先例 不令

寄進之狀七件

康永武年卯月言

信安子

佐渡國久知郡陽臺山長安寺

舞楽問事

右書當寺雖有被興以舞楽意趣文  
依學一廢新之令然止百家源貞泰先  
寄進田地雖奉加助成尚以依為寺經營  
不足園中將亦負泰願分初進奉与被  
樂新而也令初進安全不可成云奉思西之  
谷之被因今令力之現在象神意利生子之  
孫之世頂當生結仏子縁之終世為<sup>生</sup>也此  
以趣衆徒一同令學之實依每年三月十日

舞楽至未來永切無闕也彼勤以之且  
天長地久寶祚業運姝且之古中繁昌<sup>舞楽</sup>  
興隆佛法至不<sup>定</sup>也件

親應貞年辨八月十日右邊門耐貞泰

定

佐渡國長安寺系之任先規例奉

興隆佛法奉

衆徒於當寺法學及修理造管不可被

加戴矣

一寺田例役事

一西<sub>レ</sub>不及不可被闕如矣

一教<sup>敬</sup>生禁断事

此門不可被教<sup>敬</sup>生狼籍矣

一山脚用物於<sub>レ</sub>内之為寺中<sub>レ</sub>忌意

非制限

一從地頭方不可入使者事

一寺中檢断事

寺中之沙汰不可綺控門之檢断一山

會令互理非極測應依<sub>レ</sub>依<sub>レ</sub>一非

恒計之恒重<sub>レ</sub>意<sub>レ</sub>被付寺造管<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>猶

雜計事<sub>レ</sub>私<sub>レ</sub>不可成敗<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>可

作<sub>レ</sub>戴矣

右以前条<sub>レ</sub>一山別當系<sub>レ</sub>危<sub>レ</sub>造<sub>レ</sub>同<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>与<sub>レ</sub>代

舊<sub>レ</sub>記不可被遺失<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>件

觀應三年二月日 危<sub>レ</sub>當<sub>レ</sub>耐<sub>レ</sub>源<sub>レ</sub>賴<sub>レ</sub>秀

長安寺 佛神田事

合臺所云

右於彼田地者如元<sup>ち</sup>被<sup>ち</sup>召<sup>ち</sup>勢加賀守  
源存泰立<sup>ち</sup>示<sup>ち</sup>被<sup>ち</sup>被<sup>ち</sup>平金<sup>ち</sup>新<sup>ち</sup>禱<sup>ち</sup>  
誠<sup>ち</sup>精<sup>ち</sup>為<sup>ち</sup>息<sup>ち</sup>災<sup>ち</sup>延<sup>ち</sup>命<sup>ち</sup>新<sup>ち</sup>誠<sup>ち</sup>仍<sup>ち</sup>狀<sup>ち</sup>如<sup>ち</sup>件

應永五年十月日 加賀次郎源直泰

此寺元

順德上皇ノ書セタマヒニ陽雲山ノ額アリモヲ越  
後勢ノ中ニ古藤清雲軒トイフモノ取テ彼國

魚沼郡 上田雲洞庵トイフ寺ニ送リシトイハリ又  
寺ニ稀<sup>ニ</sup>金剛力士ノ像アリ昔清水運慶彼

上皇ヲ慕ヒマ井ラセテ此國ニ渡リニ時久知ノ高  
林トイフ所ニテハカラス良材ヲ得テコノ像ヲ作り限

リナク喜ヒシトイヒ傳ヘタリ此像ノ骨節ハ彼木  
ノ文理ノオノツカラ叶ヒタリニテ人エトハ思ハレヌマテ

ノ奇作ナリ其餘數多ノ佛像アリテ其古キコ  
トハ皆千年ニ近カルヘキモノナリ昔ハ脇坊アマム

アリタレト今ハ皆廢レヌ 在ニ傳アル所哉後勢ノ為ニ破却  
セラレシトイハト左ニアラヌ慶長四年

閏三月朔日須賀修理カ銀子清取リ狀ニ智藏坊大嚴淨玉院  
菩提院林照常明圓林金藏照光坊十ト書ツラ子久ルヲ見レハ



其頃マテモ坊宇アリシト見エタリ今ハ皆農家トナリテ小サキ家  
 コトニ大ナル本尊ヲイカメシク置タルハコトナルヨウニ見エタリ  
 此寺昔ハ國ノ内ニ双ヒナキ大寺ニテ本寺トイフ  
 モノニテアリシカ百五十年コノカタ清水寺ノ  
 未寺トナリ又元禄ノコロマテハ法性院トイフ寺コノ  
 寺ノ門徒ナリシカコレモ今ハ清水寺ノ門徒ニ  
 加リ又コノ寺ノ地殺生ヲ禁セラル以下三條ノ  
 制札ヲ賜リテ惣門ノ前ニ建タリ

談議所坊 真言宗山城國醍醐釋加院ノ未寺  
 地五町歩

田壹町三畝歩

租税半ヲ免サレ

圃三段五畝拾三步

租税悉免サレ

田圃貳段四畝貳拾歩

租税同右

米貳石八斗五升七合三夕

雜太郡 中原村ニアリ弘仁年中基ヲヒラキ  
 テ本ハ古義ノ真言ニテアリシカ近キ世ヨリ新我  
 ニ改ルトイヘリ此寺ニ古文書アリ左ノ如シ

無量壽院後不憲宣申依渡國  
 祿職ノ事

貞和六年十月十三日御下文可被沙

汰付憲空代之状依仰執達也

親應二年六月廿七日 筑後守

後不憲空法中

宣案

之郷 北畠中納言

寛正四年三月十日 宣旨

玄量壽院新儀不僧部源朝臣

憲海臣奉祈 聖朝安穩實祐

長遠抽四海奉年丹絨不天氣

紀明一國僧侶之形正於遠托

之業之可及故門之沙汰天氣處

室下也

為人右中辨及系俊顯奉

中頃無量壽院ト唱ヘ又長福寺トモイヒケル

コトモアリシカ其後舊名復マリ此寺ノ地殺生ヲ

禁セラル以下三條ノ制札ヲ賜リテ惣門ニタテタリ

妙宣寺

日蓮宗甲州身延武別池上下總中山三ヶ寺輪番所

地四町四段八畝八歩

田四段八畝八歩

圃四段壹畝拾壹歩

米貳石五升九合三夕

租稅三分ノ一免サレ  
租稅悉免サレ

雜太郡阿佛坊村ニアリ文永八年日蓮此國

へ詣セラレシ時十一月朔日ヨリ大野村塚原ニアリ

テ既ニ饑饉ニモ及フヘキトコ深夜ニ食ヲ饒リ

テ危難ヲ助ケテ遠藤左衛門為盛カ舊蹟ナリ

為盛始メ

順徳上皇ニ仕へ奉リテ上皇ヲ國へ遷幸アリ

シトキ御供シテコニ移リ住ス仁治三年九月

上皇崩御マシメテ後薙髮シテ阿佛坊トイ

ヘリソノ妻ハ右衛門ノ佐ノ局ノ侍女ニシテ為盛ト

トモニ在家ノ僧タリ

按スルニ為盛カ下此國ニ記シ傳ハシテ  
遠藤武者盛遠カ四世ノ孫ニシテ故

アリテ流罪セラレ新保村ニ居ルトイハ或ハ民部卿忠永ノ六女為  
長ノ四子ニシテ盛遠カ弟ナリトイフ誤カシキコトナク又ソノ妻ヲ子

日尼ト稱セシハ上皇都ニカヘリタマハレコトヲノミ方モ煩ハセタマヒシカハ  
為盛カ妻日毎ニ海ニ入りテ波ニ浴シ朝日ヲ拜シテ祈請シテ十日ノ

功ヲ滿シカハ上皇キコレメシテ十日女ト呼セラレケルトイフ  
ソノ名ノ異ナルニ附會セシ説トオホユレハ信ニ用ルニタラズカクテ

日蓮教サレテ鎌倉ニ歸リ甲州身延ニアリシノキモ

為盛ソノ徳ヲ慕ヒテ屢訪ヒケルカ弘安二年ニ卒ス

其子九郎盛細相續ヒテ法華經行者トナリ  
日蓮此國ニアリシ時常ニ左右ニ侍シテソノ代  
年經テソノ宅ヲ捨テ寺トナシ妙宣寺ト云嘉曆  
年中雜太郡竹田ノ城主本間泰昌妙宣寺  
ヲ居城ノ傍ニ移シ天正中ニ至リテソノ子孫高滋  
ナホミタ田園ヲ寄附シテ寺ヲ今ノ地ニ移スソノ地  
遂ニ一村落トナリテ竹田村ノ内ニアリシヲ元禄七  
年竹田村ヲ分チテ始メテ阿佛坊村トイフ一村ヲ  
置トイヘリ遠藤系圖  
古文書  
此寺日蓮ノ書セシ大曼多羅北陸道七箇國

法華棟梁ノ曼多羅ソノ外日蓮ノ消息數通  
及ヒ古文書許多アリ此ニ一二ヲ出ス

定補師分系別尚職事

右依渡阿闍梨日海又お学文授法  
雖乃日興弟子依立仲ノ由茲日蓮聖人  
少弟子也其右を聖人依渡ノ至流罪  
御時尋考之要依一二之切彼是置  
本弟子六人ノ陸松お阿佛房を為直  
御弟子象聖人遣相續佛法ノ惠命

一功荒生也仁法苑之大栋梁也然其  
阿佛房之路亦續之子孫也小陸道之  
了為法苑之由但日蓮聖人之御筆跡  
之吉日滿阿闍梨如陸道七ヶ玉之可  
為法苑之大別當也大荒地即之被  
移知此旨也日真門徒之信侶亦敢勿  
遠矣之若肯以此旨之崇之為大請法  
也仍呈狀如件

天保二年十月十六日 日興

御免寺之事被改會統不可  
存子細旨而被係也仍執達  
如件

天文三年甲午三月日

佐別難太郡 本間之四郎高滋

武田阿佛坊

依別雜太郎竹田村阿佛坊  
和陸乃七ヶ箇之<sup>統</sup>領仍執達也件

天文三年甲午三月日

本間之四郎高滋

阿佛坊

割札

竹田村

右於尚地法軍警燈坊娘籍美  
竹本房棟事望令倅心早美  
遠托之某在之りを於立下下加成  
敗由 作由成湯系平去也仍  
少件

天正十七年六月日 在印申

阿佛坊

此寺ノ境内ニ日野權中納言資朝卿ノ墓アリ  
委シク古蹟ヲ夕古クヨリ傳フルトコロノ彼卿書寫ノ  
條ニ出ツ

法華經一部アリタケ一寸八九分ノ紙ヲ卷テイカ  
ニモ細カニ書レタルカ疑モナク五百年前ノ物トソ  
見エタル其奥ニ記ストコロ左ノ如シ

右經當尊考幽靈忌月為功德増進  
書之前黃門侍郎資朝

元德三年辛未五月廿一日

右經慈母<sup>上</sup>幽儀當七々忌為功德増進書之

元德三年辛未七月七日

前權中納言藤原資朝

根本寺 日蓮宗甲州身延武州池上下總中山ニテ寺輪番所

地六町五段九畝六步

田貳町三段九畝貳拾四步 租稅悉免サル

野壹段五畝步 租稅同上

加茂<sup>茂</sup>郡大野村ニアリテ蓮師謫居ノ舊蹟ナリ

文永八年辛未十月廿八日越後ノ國寺泊ヨリ

此國松ヶ崎へ着岸小倉ノ山ヲ經テ十一月朔日此

村塚原トテ國人ノ尸ヲ送ル野ニ草ノ庵アルヲ謫居

トシテ國府ノ本間カ心ニ任セ此所ニ棄置マ井ヲス

遠藤為盛夫婦ノモノ深夜ニ食ヲ贈リ之此時

コトナリ後星霜ヲ経テ天文二十一年壬子大泉坊  
日成トイフ僧蓮師ノ旧跡ヲ訪ヒテ此所ニ年<sup>至リ</sup>  
初テ一字ヲ草創シテ根本寺ト号セリトイヘリ  
此寺ノ傍ニ慶長ノコアル僧一寺ヲ建テ  
正教寺ト名ツク寛文年中ニ廢ストイフ  
此寺ノ境内ニ弔穴塚アリ往昔日蓮<sup>毒</sup>コニアラレ  
シ時ツノオヲ子タムモノアリテ食中ニ毒ヲイレテ  
送リシカハ蓮師オモフ処ヤオハシケンヤカテ傍ナレ  
穴ニアタヘラルニツノ大忽キタフキ六竊ニトノヨシ  
ヲ遠藤為盛ニ告ラル為盛コレヲ聞テカノ穴師  
ノ坊ノ御為ニ死セシトヲ深ク憐ミツノ塚ヲ作り  
テトムラヒケルトナリ

實相寺

根本寺末寺

地七町四段八畝貳拾四歩

田壹畝貳拾壹歩

租税三分一ヲ免サレ

雜太郡市野澤村ニアリ日蓮市野澤ニアラレシ  
トキ毎朝コノ山ニ登リテ朝曦ヲ拜セラレソノ時  
傍ナル松ニ袈裟ヲ掛ラル袈裟掛ノ松トモイフ今  
ハソノ松枯ケル故ソノ上ニ一字ヲ建テコレヲ掩フ本間  
堂連<sup>三</sup>ニ隱居シテ蓮性房日永トイヒ山ヲ小松山



ト呼ヘリトワ

本行寺

根本寺未寺

地壹段五畝歩

田五畝貳拾壹歩

租税三分ノ一ヲ免サレ

羽茂郡松ヶ崎村ニアリ文永八年日蓮流サレタリ

時越後ノ寺泊ヨリ船ヲ出シテ十月廿八日カウノ瀬

ト云処ニ着ク此所ノ明神童子ノ形ヲ現ハシテ日蓮

ヲ伴ヒ空木ノ中ニ誘ヒテ酒ヲ勸メシトナリ此時ノ

杯ナルモノ此寺ニ傳ヘテ寶トセリ此空木ハ榊ササキナリトテ

今モ孽生暢茂茂シテ長四五丈圍ニ丈アマレリ

妙照寺

甲州身延久遠寺支配

地五町五段八畝貳拾四歩

田貳段三畝貳拾壹歩

租税三分ノ一ヲ免サレ

野六畝貳拾四歩

租税悉免サレ

雜太都市野澤村ニアリ文永八年日蓮謫居

ノ時塚原ニアリシニ其地國府ヨリ程近ク人々

宗風ニ傾キタルヲ留ムトテ國府ノ本間カ計ヒヨリ

同シキ九年四月七日一ノ谷ニ移ス近藤伊豫守

清久ヲシテ監守セシム此地モトテ沃トイコ後清久  
本間六郎左門重連カ家臣ニシテ此地ニ居レリ  
其子小次郎信重トヒニ蓮師ヲ欽仰ス清久カ  
一族覺靜坊日靜トイフ僧深ク其徳ヲ信シテ  
奉侍セリ日蓮教サレテ鎌倉ニ歸リシ後其所ニ  
一宇ヲ建ツ後日蓮身延山ニアリテ寺号ヲ法華  
山妙照寺ト名附シトイヘリ此寺文永九年四月  
雜太ノ地頭ヨリ近藤伊豫守久清カモトヘ送リ  
テ日蓮ヲコニ移セシトキノ古文書マタ同キ十一年  
三月蓮師ノ親弟日朗カ推乃ヘ来リシ赦免状

ソノ頃寫セシモノソノ他古クヨリ傳ヘシモノ多クアリ  
コニニニヲ出ス

ノ清久充 本左を

此流人日蓮傳北の要以鎌倉在  
制杖置書元中付也

四月七日

勝利

を併列ハ乃清久

御判

日蓮法師の勅免事有御免件  
由下被作下也早可被赦免之由也  
也仍執達也件

文永十一年二月十六日 兵部丞行

山城守入彦良

日蓮此度被赦免徳念舎に在るにても  
如前所預之に已後足高計年如

是度及及無由存之今永元之預  
赦免之也日蓮一代より功徳在るに  
及亦持し之也此種之了法童子心  
始終使口杖不加毒不能害といはる  
難之由種之徳をた爲つ及梵天釈天  
に由便之由ありて其山々の契約二  
け判をせしむる一及の未束は持法  
お憲山日蓮に候ふ其時由是に  
於て又縁念より申進也

文永十一年甲戌三月十一日 日蓮

を及や左衛門尉及

妙経寺

甲州身延山久遠寺末寺

地三段九畝三步

圃九畝貳拾九歩

租税悉免サレ

雑太郡中原村ニアリ明應三年癸巳此寺ノ

住僧日應ノ筆記ヲ考ルニ始メ日蓮市野澤

ニ謫居ノ時監守セシ近藤伊豫守清久ノ息

中興小次郎信重カ旧跡ナリ信重中興村ニ

住ス世ニ中興入道トイフコレナリ信重夫婦深

ク日蓮ヲ信シ文永九年九月中興村ノ内ニ

庵ヲ作りテ法華堂トイヒテ其処ニ請シマ

井ヲスソノ子孫旧跡ヲ續テコノ堂ヲ崇敬シ

累代ノ位牌ヲ置リ應永ノ頃ニイタリテ信重

カ四代ノ孫中興左衛門勝重トイフモノトキニ

鎌倉ヨリ日清トイフ僧来リシカハ勝重コレト

計リテ一寺ヲ作ト欲ス日清ヤカテ法華堂ヲ

改テ法華山妙経寺ト号ス寛正三年此寺ノ

檀那中興源五郎信之トイフモノ一族トモニ

居ヲ和泉ノ郷五丁ノ木トイフ処ニ移セシ時コノ

寺モ同シクソノ処ニ移リ又以上日應筆記年経テ弘治九年再ヒ寺ヲ今ノ地ニ移ストイヘリ此寺天正十七年七月上秋景勝郷ノ制札ト慶長九年七月國司大久保長安ノ制札ヲ傳ヘタリ

世尊寺 駿州富士郡北山本門寺末寺

地壹町七段七畝步

田貳段三畝貳拾貳步 租税三分ノヲ免サレ

雜太郡竹田村ニアリコノ寺ノ来歴サタカナラス日蓮抄出一軸アリ古ク傳フル処ノ古文書

左ニ記ス

於永代ハ徳屋ノ末ノ地を色中廻る後モヤ仍ル件

泉澤小四郎

世尊寺振

系

天正十年三月十三日

本光寺

京都本國寺未寺

地六段六畝步

雜太郡後山村ニアリ日蓮赦免ノ時親弟  
日朗赦免ノ状ヲ推乃ヘ来リテ一宿ノ古跡ナリ

安隆寺

京師妙顯寺未寺

地壹町六畝拾八步

圃壹段四畝三步

租稅悉免ナル

羽茂郡茂小木町ニアリ日蓮赦免ノ時告ムト  
テ文永十一年三月八日門徒日朗渡海セシ時

着岸ノ古跡ナリ此寺ニ胡元ノ至元年中古  
寫本紺紙銀泥ノ法華經アリ筆畫精良

觀ツヘキモノナリ奥書左ニ記ス此寺ニ同シク至元ノ年号

御言鏗鏘トシテ尋常ノ物ニアラサリシカ  
近キニ失ヒシトナリヨシムキコトニリ

至元廿二年乙酉五月日時為我所  
傷水陸飛沈一切衆生伏我功德因緣  
發菩提心成等正覺兼及己身現世  
逢九橫當生淨土化度群生又願小  
男大願宝休病厄消除壽命延長成  
就大願一門券屬消災解厄福壽

增延七久遠離苦生天法界含靈  
俱霑利樂尔

右散騎尚書上將軍康休一母誌

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

大願寺

時宗相摸國藤澤清淨光寺ノ末寺

地貳町三段六畝

圃六段八畝貳拾三步

地貳町八段壹畝拾四步 租税悉免サレ

雜太郡古府ノ西四日町ニアリ此寺貞和ノ頃

基ヲ開テ初メハ府中橋本ノ道場トモ松山ノ

道場トモイヒケリ橋本ノ道場トイヒモハ國府

川ノ橋ニ近ケレハニヤ松山ハ元ヨリ地名ナルヘシ其コ

ロヲ阿トイヘル修行者モトハ朝廷ニ仕ヘ人ノ世ニ

沈テ茲ニ来リ隱レシカ菅公ノ木像ノイト古キヲ

此松山ニ置ス彼人齡モ徳モ高カリケレハ  
地頭ヲ尊ヒテ此道場ニ留ムトセシカトウケカハス

ニ宮村ニアル山下ノ寮トイフニ移リ住テ月ノ

夕花ノ朝松山ニ来リ人々ヲ集テ歌ヨムコトヲ常

トセシトソ了阿ノ讀タル歌タカカル中ニ

録太政ヲシマレテトクニルハナモアルモノヲミハ

此道場ニイッマテカタクノコルラム

此道場ニクモミツニマカセハテタルミニシアレトツ井ノ

スミカヲナホモトメツ

大程ナク山下ノ寮ニテ世ヲ去シトワ  
山下ノ寮ハ今ノ  
歡喜寺ナリ彼寺

ル條見 其後モ松山道場ニ常ニ會遊アリ又月

ナミノ連歌トイフ事モ始リキ  
連歌ハ文龜ノ此ヨリ此寺  
ニテ會セシト言傳ルナリ

文和四年乙未遊行八世渡船ト聞エシ僧此國

ニ渡リシ時本間佐渡守歡ヒ迎ヘテ三月廿日アマリ

ヨリ七月廿九日マテ府中ニ留メ又此アイタヨリニ

フレテ詠草アリ五月五日ハ松山ニテ定マレル會ナリ

ケレハ人ミトモニ題ヲ探リテ渡船ノ讀タル歌

山家郭公

ホトキキスタレニシキケトヒトスマヌミヤマ

カクレニヒトリナクラム



海邊梅雨

シホヤカスアマノスミカモワリニケリケワリ  
タエタルサミタレノコロ

釋教

トキオオキシヨロツノ、リノナカニホミタノ  
ナカヒロヨニハコエタル

以上遊行  
渡海記

年へテ後大願寺トアラタメタクノ坊舎  
ヲ建ツラ子ケルニ天正十七年己丑、復上叔カ兵國府  
ヲ攻ルトテ先此寺ニ火ヲ放チ悉ク燒ス唯菅公ノ  
像ト袒師一編ノ書タル物トヲハ奪ニシテ燒サリ

シトイヘリ 菅公ノ像ノコトハ相川大願寺  
天神祠ノ條ト照シ見ル

彌光寺

時宗相摸國藤澤清淨光寺末寺  
地四畝拾三步

羽茂郡宿根木村ニアリ貞和中越後ノ國

應聲寺ヨリ託岸トイフ僧ヲ渡シテ始テ一宇ノ

庵ヲ建コレヲ三岬ノ道場ト名ツク文和四年乙未

遊行渡船國々ヲ巡リテ三月十三日コニ着ク此

トキ三岬ヨリ船ヲ出シテ迎ヘシトイフナリ 縁記ニ庵  
主託岸ト

アリ遊行渡船ノ記ハ能阿ト見え 斯  
テ此道場ニ留マル

コト十日ハカリワレヨリ府中ニ移リテ後フタヒ  
茲ニ歸リ八月七日艫ヲ解キ越後ノ栢崎ニ渡  
レリ遊行記渡船コノ處ニ錫ヲ阜ミアイタアル日  
窟ノ觀音ニ詣テ讀ル歌縁記



此國ノ神陀落山ハコレツコノ救世ノ  
午カヒタノメモロ人

テ深キ事其限ヲ知人ナシトイヘリ稱光寺ト各ツケ

シハ何ノ頃ニヤ思フニ文和ヨリ年ヘテ後ナルニ縁記

ヨリ海徳山稱光寺ト言ニヨシ記ニタト  
誤リナリ其支證長ケレハ洩シツ

